

## 令和4年度 第6回石狩市厚田区地域協議会 会議録

【日 時】 令和4年9月28日(水) 18:00~19:20

【場 所】 望来コミュニティセンター 多目的ホール

【出席者】 9人(15人中)

役職	氏名	出欠	役職	氏名	出欠	役職	氏名	出欠
会長	渡邊 教円	○	委員	加藤 亞弓	○	委員	角野 亮太	×
副会長	東 幸子	○	委員	鎌田 憲一	○	委員	平賀 敏和	×
委員	石田 靖子	×	委員	小山 玲子	○	委員	村本 龍一	×
委員	大内 さつき	○	委員	今 光江	×	委員	森田 瞳	○
委員	岡山 拓	○	委員	笹谷 清一	○	委員	八木沼 英晃	×

※会長・副会長を除き、あいうえお順

企画経済部企画課 ～ 宇野課長、芳賀主査

厚田支所 ～ 東支所長、吉田市民福祉課長(併 厚田生涯学習課長)

地域おこし協力隊 ～ 奥本隊員

集落支援員 ～ 八木沼支援員

事務局(地域振興課) ～ 高田課長、寺尾主査、渡部主査

【傍聴者】 1名

【次第】 1. 開会

2. 会長挨拶

3. 情報交換会(リラックスタイム)

4. 協議事項

(1) 石狩市過疎地域持続的発展市町村計画の達成状況に関する評価について

5. 報告事項

6. その他

7. 閉会

## 1. 開会

開会前に事務局（高田地域振興課長）より、石田委員、今委員、角野委員、平賀委員、村本委員、八木沼委員の6名の欠席報告と、併せて渡邊会長より本日の協議会へ厚田区地域おこし協力隊員及び厚田区集落支援員の参加を求め参加していることを報告し、令和4年度第6回厚田区地域協議会を開会した。

## 2. 会長挨拶

渡邊会長より、委員の皆様へ本日参加いただいたお礼と、協議事項の中で忌憚のないご意見を願ひし挨拶に代えた。

## 3. 情報交換会（リラックスタイム）

奥本隊員より「愛宕マルシェ第1回お国自慢市」について、笹谷委員、大内委員、小山委員より「厚田ふるさとあきあじ祭り」について、それぞれ情報提供を行った。

## 4. 協議事項

### （1）石狩市過疎地域持続的発展市町村計画の達成状況に関する評価について

#### 【 渡邊会長 】

本日は、地域協議会の審議事項の一つであります過疎地域持続的発展市町村計画に関する事項として、令和3年度の達成状況に関する評価について、協議していきたいと思います。まずは、所管してます企画課からご説明をよろしく願ひします。

#### 【 宇野課長（企画課）】

皆様こんばんは。企画経済部企画課の宇野と申します。日頃より地域協議会にお邪魔し、皆様の議論を聞かせていただき、厚田地域に対するこの愛着、それから、良くして行こう、良くして行きたいという思いが、非常に伝わってきております。皆様の中で、こういう風にしたい、ああいう風にしたい、いろんな取り組みなどお話しをされてますが、ただ一方で、思ったことが思ったとおりに中々行かないというところの悩ましきもあるのかなと思います。私たちも日頃から仕事をする上で、特に地域振興を進める中で、やはり思いどおりに行かないというところは非常に共感と言いますか、心を一つにするところです。先ほど皆様の非常にほっこりするお話の後に、この様な堅苦しいお話をするのは大変恐縮ですが、この地域協議会の貴重なお時間をお借りしまして、会長からお話がありました石狩市過疎地域持続的発展市町村計画の達成状況に関する評価を行っていただきたいと思います。

過疎計画ですが、時限の法律で何年かに法律が変わり、そのためにこの計画を立てているのですが、今回この計画に対する評価は、令和3年度から始まった計画から初めてになります。この辺は後程お話をさせていただきます。

それでは座って説明させていただきます。配布してます資料に基づいて説明をしていきますが、この説明をする前に、石狩市過疎地域持続的発展市町村計画について、ご説明します。まず、厚田区と浜益区につきましては、石狩市と合併する前から、皆様ご承知かと思いますが、いわゆる前の過疎法、旧過疎法でございます過疎地域自立促進特別措置法という法律に基づきまして、過疎地域に指定されていたところです。令和3年4月1日に新たな過疎法となりますこの計画のもとになっている法律ですが、過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法が施行されまして、新しい過疎法におきましても、厚田区と浜益区に関しては、過疎地域に指定されているところです。過疎地域に指定されますと、過疎債といういわゆる事業を興すときに、市の借金といえますか起債になりますが、これが可能となります。これを元手に事業を行う事ができます。また、国からの補助を受ける事業においても、補助率の嵩上げ、つまり上乘せされるなど、国の支援措置が手厚くなる制度になっています。

なお、過疎債の発行におきましては、これからご説明します過疎計画が必要となり、今回、評価していただく石狩市過疎地域持続的発展市町村計画がこの過疎計画となります。

それでは、資料の1ページと、過疎計画を本日お持ちでしたら、13ページをご覧ください。今回の過疎計画ですが、

過去の計画と大きく異なる点につきまして、このページに記載して「地域の持続的発展のための基本目標」を掲げている点と、それから「達成状況に関する評価」を行うこととしている点です。この地域の持続的発展のための基本目標は、過疎計画の12ページですが、いろいろと地域の実情を踏まえてこういう方向で、この地域の活性化を進めて行きましょうという基本方針に基づき立てているのが、基本目標になります。今回、地域協議会の皆様に行なっていただくのが、この達成状況に関する評価になります。非常にちょっととっつきにくい感じを受けるかもしれませんが、本計画の基本目標については記載のとおり「将来人口の推計より人口減少を抑制し、定住人口の維持」を目標としています。

上のグラフの青色の厚田区、浜益区の数値が基準となる人口になります。石狩市全体もそうですが、徐々に人口が減少していくという風に推計されています。

下のグラフをご覧ください。これは上のグラフの厚田区・浜益区の2020年から2025年の推計人口を抜粋し、住民基本台帳の人口と比較したのになります。推計値より下方で人口が推移しているのが読み取れます。また、人口減少の速度も推計より早くなっています。推計では、年に64人減少すると想定していましたが、2021年の実績では、年に108人も減少しています。推計では2025年には2,954人まで人口が減少すると想定してありますが、仮に2021年の実績値の108人で人口減少が進むと、2025年には2,391人となり、2035年の推計人口の数値近くまで人口減少が進むこととなります。

次に各区の人口減少の傾向についてご説明します。資料の2ページをご覧ください。厚田区では、推計より若干人口減少の速度が速くなっています。地区別にみると、地区の北側のほうで人口減少が読み取れます。

資料の3ページをご覧ください。参考になりますが浜益区では、推計より若干人口減少の速度が厚田区より速くなっている状況です。

次に、分野別の事項に関する事業実施状況についてご説明します。資料の4ページをご覧ください。計画に記載している事業の昨年度の実施状況について、まとめた資料になります。事業の内容は毎年度実施していくという事業や、令和3年度から令和7年度の5か年間に、実施の可能性のある事業となっております。令和3年度に実施した事業については、「○」を付けています。一つ一つの事業についての説明は省略しますが、主なものとして昨年度は、スクールバスの購入や新しい会館の建設、橋の改修工事など生活に必要なインフラの整備を行っているほか、高齢者等への除雪サービス、地域医療を確保するための事業なども行い、生活面における基盤やサポートに対する事業を行っています。加えて、両区ともに地域おこし協力隊による地域の活性化や、厚田区では道の駅を中心とした周遊観光事業、浜益区ではワーケーションの実証事業など、地域に人の流れをつくる事業を行っています。

資料の9ページをご覧ください。本計画の策定と合わせて、石狩市過疎地域における固定資産税の課税の特例に関する条例を制定し、産業振興促進区域で振興すべき業種、製造業、情報サービス業など、記載にある事業における設備投資等をした際に、固定資産税の課税が免除になるなどの制度を創設しましたが、令和3年度分では該当事例はありませんでした。以上になりますが、令和3年度の目標の達成状況及び事業実施状況についての説明となります。

達成状況に関する評価についてですが、目標であります人口減少の抑制や定住人口の維持よりも、現状では人口減少が進んでいます。担当課としては、将来推計人口よりも人口減少の抑制をする、また、住み慣れた地域において、長く生活ができるそういった生活環境、地域環境に必要なこの資料にあります1から11の施策分野において、それぞれに含まれる事業を複合的かつ連動させながら、取組みを進めているところです。この方向性について、基本目標の達成に向けて、いろんな事業を複合的、総合的に連携させながら取り組んでいくことについては、大きなズレは無いかと考えているところです。こうした目標の達成に向けた新たな視点や考え方、あるいは市として取り組むべき方向性について、皆様からご意見をお願いしたいと思います。こうしたご意見を持ちまして、私たちとしましては、評価とさせていただきます。こうした過疎計画に基づく事業を粛々と進めながら、目標である人口減少のスピードを抑えて行くということを引き続き取り組んで参りたいと考えています。どうぞご意見のほどよろしく願います。

私からは以上です。

【 渡邊会長 】

宇野課長、ありがとうございます。それでは、令和3年度の計画の達成状況に関する評価についてですが、前段に説明のありました令和3年度の達成状況について、何か皆様からお聞きしたいことがありましたら、お願いします。

鎌田委員、お願いします。

【 鎌田委員 】

今、説明を受けまして、厚田の事について色々やっていたらと思いましたが、評価と言われても、例えば箱ものだとか道路を造るとかであれば、どこまでできたから良かったとかという話になると思うのですが、これだけ見る限りでは、本当に良かったのか悪かったのか、全く私ではちょっと分からないと率直に思いました。例えばですが、掲載されている事業内容を数えたら91項目がありまして、そのうち「○」が41件だったので、45.6%、半分近く予定したものに対して、手を付けているのかなと思うことはできるのですが、実際にどのような形で、これからの達成状況の評価に繋がって行くのか、ちょっとこれだけ見た限りでは私にはわからなかったです。

それと推計値の数値で年64人となっていますが、2020年から2021年の人口ですか。それでいけば、65人になるのですが、1人の差があります。

【 宇野課長（企画課）】

ご質問ありがとうございます。質問の順番どおりの回答ではないかもしれませんが、まずは事業のこの「○」と、その「-」ですが、これにつきましては先程もお話ししましたように、令和3年度において実施をしたものについては「○」をしており、「-」については、この計画の令和3年度から7年度までの5か年で進めていく計画となっていますので、「-」の部分については、この計画期間において実施するということとなります。令和4年度に「○」が付く事業もあります。

この計画の評価の部分としては、事業の一つ一つが、一つ一つの単位でできたかできないか、着手したかしないかという観点よりは、この過疎地域において、この人口減少傾向というのは、大きな社会的流れの中で中々あらがえないものだとしても、そのスピードをいかにこの推計値に近づける、歯止めを掛けようという事が大きな目標であり、それに必要だと思われる1から11の施策を立てて、これらを複合的に連携させながら、目標達成をしていくというような観点になりますので、そのようにご理解いただきたいという部分と、中々この一つ一つが基本目標の達成にどう影響しているのかというような形容的な評価というよりは、やはりこういった必要なものを複合的に連携させながら複数の事業を進めていくことによって、そういった生活環境が改善されることで、人口減少、住みよいまちに繋がり、それが結果的に人口減少に歯止めを掛けて行くというような考え方になります。

それと推計値については、推計値の上のグラフが5年単位なので、この5年単位の差を、1年単位を平均値で割ったらどれくらいなのかというところをしているので、64.何人というところで、年によっては64人になったり、65人になったりと、今の5年間単位の減少部分を割る5で、1年単位に割り返した数値が64人となります。繰り返しになりますが、64人だったり65人になったりしているというところがございます。お答えになっているでしょうか。

【 鎌田委員 】

すいませんわからないもので。例えば、事業をするのに予算がいくらで、いくら使ったとなれば、半分くらいの5割といったのだなとかわかりやすいのですが、ただやりました、こっちはやって無いとなればちょっと。単純にわかりづらかったもので質問させていただきました。

【 宇野課長（企画課）】

確かに、事業をやったかやらないか、「○」か「×」かというところでいくと、それがどれくらいなのか、例えば、その事業を図る判断としてどれくらいのボリューム、お金であるのか数量であるのかななどありますが、そのボリューム

ムというか、それがどれぐらい投下されたのかっていうところが、非常に分かりやすい部分というのはあるのかなと思いました。そういう風に理解しました。今回はこういった形で、その全体事業が着手したのかしないのかというところで、「○」か「-」かというところを示しましたが、今、鎌田委員からご提言のあった部分をどうやったら評価の判断をしやすいのかという観点で、その事業に掛けた費用とか、そういったものがあつたほうがなんとなくですが、貢献度というか波及度とかわかりやすいのであれば、そういった形でこちらも検討させていただいて、次年度のこういった評価の場面になりますけれども、その中でお示しができるように考えていきたいと思ひます。

【 鎌田委員 】

すいません、できればその方が分かりやすいのかなと思ひました。あと、究極のその評価というのは、前段に話されたとおり、将来人口が今より減るか減らないかが最大の評価ということで、受け取っていいのですか。

【 宇野課長（企画課）】

鎌田委員が話されたとおり、それがそのとおりになったかどうかという部分が、評価ということになるかなと思ひます。

【 鎌田委員 】

ありがとうございます。

【 渡邊会長 】

その他に何か聞いてみたい事でも、これはどうなんだろうとか、よくわからない項目も確かにあるかもしれませんが、ので何かありませんか。岡山委員は何かありませんか。

【 岡山委員 】

すいません全くまとまってないので、とんちんかんな事を言うと思ひます。この評価の目的を考えていたのですが、目標値というのが一つの指針として、その人口減少の抑制、推計との乖離がどのくらいあるのかということ、抑えられていければこの計画は、達成されていくのであろうと評価ができるし、どんどん、どんどん加速して、減少が進めば、計画が正常には働いていない、機能していないという評価になっていくのかなという風にぎっくりと。人口の推移が、この計画の全てなかなと思つた時に、素人の考えなのであれなのですけども、人口が増える増えないかというのは、結局定住者が居るか居ないか、結局そこで生活をする、要するに例えば仕事を持つとか、営みがなければ、人は住まないと思ひます。だから、極論を言えば、人口を増やすのでしたら、雇用があればいいということなのでしょうけれども、でもそれは一朝一夕になるものでもありません。ただ私の肌感覚としては、厚田のファンはすごく多いですね。厚田に行ってみたくとか、行ってすごく美味しかったとか、綺麗だったとか、すごく魅力という人が沢山いるので、いろんな取り組みは、いろいろな場所で小さな花を咲かせてるような気がします。それが、ただ人口減少に直接結びついていないから、この計画は達成されていませんとするのは、ちょっとなんか厳しいのかなと思ひました。要するに人口が減っていくということは、ある意味しょうがない部分とか、そもそも日本の人口が減っているわけですから、世界的にも減っているのですけど、日本の人口は減っているわけだから、それはしょうがない事なので。評価と言えれば必ず指標が必要なのですけれども、その指標をどこに持っていくのか、人口の減少率では一概に言えないのではないかとこのことを悶々と考えていました。すいません、予告どおりチンプンカン、とんちんかんなこと言っていると思ひます。以上です。

【 宇野課長（企画課）】

ありがとうございます。実は私どもも、先程冒頭で申し上げましたが、この計画に対する評価というのは、新しく法律が変わってから初めて作る計画で、その評価というのはどういう手法であつたらいいなど、教科書といひますか、無いのです。その中で、まずはその基本目標をどこに置くのか、そもそも過疎地域というのはやはり人口が減って、いろんなことが成り立たなくなるということを何とか防ぐ、そして地域活性化、地域の特徴を活かして、人口の定住化を図

っていくという地域であるから、過疎地域に指定をされているわけで、そのやはり目標というのは、いろんな指標の考え方があってと思いますが、幸福度とかあるかもしれませんが、ただやはり過疎地域そもそもの考え方を言うと、人口減少というのをどうやって抑えて、地域が地域の営みとして、しっかり成り立つ為に必要な人口というのをどういう風に、減るスピードを抑えていくという観点で考えています。ですので、私どものこの計画の目標ですが、この人口というものに着目をして立てているところです。岡山委員が話されたとおりこの人口減少というのは、いろんな社会現象もあり、またその事業を行ったことが、本当にそれに結びつくかどうかとか、例えばもっと違う要因があるのではないとか、いろんな形であると思います。ただ一方そうあっても、やはり我々としては計画の中で、こういった基本目標を達成するために、どうしたらその地域に住んでいる方が住み続けられるのか、あるいはその地域に魅力を感じてそこに来るとか、というようなところを事業として組み立てることによって、少しでもこの目標に近づける、あるいは目標を達成するように近づける、あるいは進めていくというような観点でいますので、中々評価という観点では、推計よりも今回はスピードが早いので、それを持って駄目なのかどうなのかということというよりは、先ほど申し上げましたが、進むべき方向性ですとか、とりうる施策というものに関しては、大きくずれてはいないなという風に思っています。これを着実に推進していくことが、こういう視点というものがひょっとしたら、もうちょっとあると、この目標というものに、少し活かされるのじゃないか、これは貢献できるのじゃないか、もう少し具体的になるのじゃないかという様なことがあれば、そういった今回の結果を踏まえて、より良くするための考え方、方向性というものが皆様の中でいただけるのであれば、そこを持って評価という形ですることが、今、私どもが与えられてる環境の中としては、そういった評価というのが、一番妥当ではないのかなという風に考えているところです。すいません私も、伝わったかどうかということもありませんが、考えながら喋っている部分があったものですから、分かりにくかったところもあるかもしれませんが、趣旨としてはそういうところです。

【 渡邊会長 】

よろしいですか。急に振ってすいませんでした。その他、ありませんか。  
加藤委員、お願いします。

【 加藤委員 】

すいません、私もあまりわかってない状態なので、変なことを言うかもしれませんが、岡山委員の話聞きながら私もそうだなってところがあるところがあります。まずこの資料を見て自分がここに赴任してきてから望みだけで見ても、結構人数が減っているのだなということに凄まじくびっくりしているのですが、住んでいて自分の中では、凄く人数が減って寂しいとか、なんか不便を感じているとかはなくて、それってこういう地域の方とか市の方が、して下さっているサポートとか支援とかが凄くうまく機能しているからこうやって住みやすく、何年もこうやって過ごさせてもらってるんだろうなというふう感じてました。今、人口減少を抑えられたら達成というような話をちょっと聞いていて、やっぱり違和感がありまして、どうしても減るのはしょうがないけど、こう減っても成り立つようにやっていくというのが大切で、それをこの今、住んでいる人たちが、不便を感じていない、十分なサポートをさせていただいているという風に感じているかどうかというのが、それがやっぱり評価になるのじゃないかなという風に、聞いていて感じました。人口の減り具合を方向決めの目安にするのは、とってもいいと思うのですが、やっぱりその数字が評価にはならないのじゃないかなというような感じがしました。文句とかじゃなくて、凄く十分にさせていただいているのに、数字で評価して下さいと言われて判断しちゃうのは、申し訳ないというかもったいないというか、もっと細かくこういう所をしてもらってすごく助かっているとか、ここはもう少し手を加えてもらえたら住みやすいのにとか、そういう評価だったり、意見の反映だったりできると、もっと意味のあるというか、すごい実感の湧くものになるのじゃないかなという風に思いながら聞いてました。すみません、ちょっとまとまらなかったのですが、終わります。

【 宇野課長（企画課）】

ありがとうございます。地域で実際に暮らしている方からのそういった目線といいますか、そういうところのご

発言というかご意見だったと思いますが、なるほどというところはございます。加藤委員が話されてましたけど、やはり人が生活をしていく中で、さまざまな必要なサービスという部分をお気づきになって、それに対していろいろと考えていただいていることは、行政として非常にありがたいことです。一方で、やはり先程もお話しましたこの過疎計画の大きな土台、基本的な考え方の中に、やはり地域が成り立つというか、持続可能な部分ということで行きますと、やはり人が担う役割というのが大きいものがありますので、それがどんどん減っていくということになると、やはりそういった状況というのが、それぞれ暮らしている方の生活が成り立たないという部分というところもあると思いますので、過疎計画としては、それを何とか止めるために、いろんな生活サービスですとかハードも含め、あるいは産業基盤も含めた施策を打っているという状況です。ですから、事業、それから人が減る、人が減るといった数字に対する評価というところは、中々ちょっと違和感があるということは、非常に理解をするところはあるのですが、加藤委員の評価の見方というのを否定するものでは決してなくて、むしろ我々としてこういった事業、計画に対して、ご理解をいただいているという風を感じているところです。過疎計画というものの成り立ちからすると、先ほど言ったように、やはり人口をある程度、減少を抑制して、地域社会が成り立つという部分を何とか、持続可能にしていくというところが大きくあるものですから、それに対して必要な事業を行い、それがもし計画と乖離があるのであれば、こういった要素、こういった考え方というのを、今のこの枠組みの中に入れていくかというところが、より計画として目指すべき目標に近づけていけるのじゃないかなという風に思っていますので、まずはこの計画の令和3年度における状況についてご理解をいただいた上で、もし少しでもこういうことのエッセンスがあると、もう少しこの計画が、目指すべきところに進むのではないかとこのところのご意見とか、観点でいただけると、非常にありがたいという風に思っているところです。以上です。

【 渡邊会長 】

ありがとうございます。

八木沼支援員、お願いします。

【 八木沼支援員 】

この過疎計画の分野別の事項に11項目ありますが、先程から話に上がっている人口を減らさないための生活をしていく上で、この11項目は、恐らくどれも必要だからこそ入っているものだと思っているのですが、生活をしていく上で直接的に関わってくる項目と間接的に関わっている項目が、混ざっているのかなと個人的に思っています。移動するための道路の整備ですとか、厚田でもうしている開運橋の整備ですとかは直接的な部分なのですが、観光に関わる部分ですとか、6次産業、商工業などの部分になると、観光で人が流入してくることによって、人口減を押しえたいという間接的な部分になるので、11項目の中のどこが、人口減に一番効果があって、どこはあまり効果が無かったかというような評価を、何を持ってするのかというところが、すごく難しいのじゃないかと思いました。その辺の評価をどこでしたらいいのか、正直ちょっと難しいなと思うので、最初に鎌田委員からお話があったようなその「○」と、ここだけじゃなくて、この事業にいくら掛かっているとか、令和3年度が初年度なのであれば、余計に初年度はこういう満足度でしたとか、それが5年後の指標として、どういう満足度でしたというのを比較するとか、評価をしていくというのも、人口の数字のみじゃないプラスアルファがあると、もう少し評価として見えやすいのかなとちょっと勝手に思いました。

【 宇野課長（企画課） 】

ありがとうございます。目標としては、すごくシンプルではあると思うのですが、人口減少というのを推計値にせめて近づける、歯止めを掛ける、スピードを早めないというのは、すごく非常にシンプルなところではあるのですが、具体的に人の生業といいますか、そこは非常に複雑なところがあって、いろんな要素があると思います。それを今、八木沼支援員が話された様に、間接的なものと直接的なものがあるかと思います。間接的という風に表現をさせていただいた分野ですが、これについても本当に話されたとおりですが、直接的なものだけが、必要というものは無くって、間

接的なものというところも、これによって雇用の場が生まれ、あるいはその作ってるものが、観光という仕組みを通して消費者に渡る、そういった付加価値、金銭的な価値があって、そこが継続的に販売できれば、その事業で成り立つことによって、厚田で生活を続けられるということに、いろんな形で関わってきているのじゃないかなと思っています。ただ人口減少の部分に対してどの事業が、その貢献度合といいますか、どの程度、濃淡と言ったらおかしいですけども、いろんな形で複合的に連携をしながら、いろんな相乗効果をもって、恐らくそういう効果に繋がっているのかなと思ひまして、要するに見せ方とか伝え方ですから、鎌田委員が先程話されたような、もう少しボリュームだとか、そういったものを皆様に判断していただくための工夫というのは、多少必要かなという風に思っていたところです。そういった形で受けとめさせていただければと思います。

【 渡邊会長 】

ありがとうございます。

小山委員、お願いします。

【 小山委員 】

今日、突然に見た資料なので、できればちょっと前にこの資料をいただいて目を通したかったなというのが、本音です。それから令和3年度の事業を実行されたというか、直したりしたところには「○」としているとのことですが、「-」の部分は、何年ですというか令和7年度までに実行できるということですよ。「○」の付いたところで、固有名詞が記載されているところで、例えば、あつた中央クリニックの何かを直したのだなど分かるのですが、他の施設の記載だと、何処の保育所を直すのだろうか、細かい説明があればすごく分かりやすいのじゃないかなと思ひました。やはり定住移住に人口が関わってくるのかなと、この資料を見まして思ひましたけれども、やはり環境を整えたからといって人口が増えるかという、それはイコールではないのじゃないかなという風にちょっと思ひました。以上です。

【 宇野課長（企画課）】

ありがとうございます。まずは、直前になり大変申し訳ございません。次年度以降は、なるべく早目に出せるようにしたいと思っています。あと、これも先程来と共通してる部分ですが、見た時に分かりやすい表といいますか、そういったことはご意見も踏まえて、特にお話いただいた何処の保育園なんだろうとか、どっちの保育園なんだろうとか、そういった部分ですとか、あるいは、整備事業は具体的にどんなことやったのだろうか、そういった部分については、ご意見を承りまして、少し工夫を考えたいという風に思ひています。最後にお話のありました人口減少の部分ですが、確かにこの記載されている事業が、これで全て、これだけあれば足りるということではないと思っていますし、言い方を変えれば、行政で行う事業としては、こういった事業になります。もちろん人口減少に関しては行政の事業だけでは、やはり達成できない部分もありますので、まさに今皆様がそれぞれのお立場で活動されているような、そういったその地域力というの、やはり行政とも連携をしながら相乗効果を発揮して、よりそういった効果というか、そういったものができるのかなと思ひますので、正しく行政だけではなくて、皆様のような地域の方のお力を借りながら、少しでも目標の達成に近づければと考えていますので、よろしくお願いします。

【 渡邊会長 】

ありがとうございます。そのほか、何かご意見ありますか。

森田委員、お願いします。

【 森田委員 】

質問ですが、2 ページ目の厚田区人口増減の表で、※印で記載されている内容がちょっとわからないので、この説明をお願いしたいと思います。例えば、2018 年が1,844 人、2019 年が1,778 人、差が66 人減っているのですが、2018 年の自然増減と社会増減を足すと68 人になるのかなと思ひまして、ちょっとその辺が分からなかったもので、どういうことなのかなと思ひて質問させていただきました。



【宇野課長（企画課）】

これに関しては社会増減ということで、石狩市を単位として、札幌市ですとか、北広島市ですとか、そういった他市町村に転居した場合、あるいは転入した場合というのが社会増減になるのですが、一致しないというのは、同じ石狩市内で、厚田区から花川とかで、そういった場合は社会増減にカウントしないものですから、それでちょっとこう集計上の都合があって、市内の転居に関しては、どうしてもここに含まれないので、それでちょっと一致しない、純粋な厚田区から札幌市ですと、そういうことがあれば、社会増減としてカウントできるのですが、市内転居だと統計上その社会増減には、石狩市としてはならないので、そういった状況がありまして、ここは一致しないという風になります。

【森田委員】

わかりました。この厚田区の人口増減で、例えば亡くなられる方がどんどん増えているとか、出生がどんどん増えている減っているとか、あとそれこそ市内転居で数字が出てこないことがあっても、厚田区としては死活問題なので、肌感覚で私たちは、厚田の誰が外に出たというのは、なんとなく分かるのですが、そこがわかれば、例えばですが、もっと厚田が住みやすくしたいとか、高校まで通えるようなバスをあったらいいのじゃないかとか、もっと細かい計画とかそういうようなものが、考えられるのかなと思いました。

【渡邊会長】

ありがとうございます。その他ご意見ありますか。

少し人口の増減だけにとらわれ過ぎて、全体像がちょっと見えなくなってきているような気も若干してます。やっぱり人口は、それは減らないよりも増えた方がいいに決まっているわけですけど、だけど、どうしても減るのはしょうがない。減る部分を少しでも抑えることによって、この過疎計画の事業を活かしていただければいいのかなという風に思います。地域協議会でも、これまでまとめてきてるものもありますので、事務局の方から説明をお願いします。

【事務局（高田課長）】

私から少し整理をさせていただきます。皆様からいろいろなご意見が出ましたが、中々評価ができないという意見だったと思います。資料2を見ていただくとわかるとおり、これは以前にも説明した資料になりますが、これまで地域協議会の中では、大きく移住定住、情報発信、それから子供教育、この三つのテーマに絞り込みながら協議をしてきたことは、皆様ご承知のことと思います。厚田区としての取り組むべき方向性というものが、これまで議論を重ねてまとめ上げているというふうに理解をしていますので、この辺をしっかりと企画課サイドで受け止めていただき、今後の進めるべき方向性ということで、整理をしていただけないかなというふうに考えていますが、いかがでしょうか。

【渡邊会長】

事務局から資料2になります「第9期厚田地域協議会のこれまで」についての説明があり、これをベースに令和3年度から始まったこの計画ですから、まだまだこれからいろいろと施策をされていこうと思いますし、していただきたいと思いますので、説明のあったように今回の評価については、これまでの地域協議会で話し合ってきましたこの3つのテーマを含めて取り進めていただくことで、今回の評価にさせていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

【東副会長】

要するにもっとわかりやすいものを作っていただかないとダメなのかなと思いました。まず5か年計画であるならば、何年にこれは取りかかるとか、あと全部の事業の中でこれぐらい使う予定なので、今これぐらい使っているとか、「〇」の中で、厚田に関することだけ拾って具体的に書いていただけると、すぐ評価できるのですが。いきなり評価して欲しいと言われても評価できないというのが、委員の意見だと思います。これを今、評価することが難しいという状況なのかなと思います。

【 渡邊会長 】

だんだん煮詰まってきましたけども、やっぱり今まで令和3年度にやった事業について、90何項目のうちの40何項目を行なっています。それで人口の減少については、ちょっと予想よりも進んでいますが、住んでる方たちのために、こういう施策を実行していますとか、そういうことであれば評価もしやすいのかなと思います。評価をどうしてもしなくてはいけないというか、前提というか規則だと思います。だから、もっとこうして欲しい、早くこういうものを作って欲しいとかという部分は、勿論あるかと思うのですが、市の方もここは一旦評価をさせていただきたいということで、今回、企画課長から説明を受けているものですから、地域協議会としては、先程、高田課長から説明がありましたこの3つのテーマを含めて、今後、進めていただけるようお願いしたいということで、今回の評価とさせていただきたいのですが、どうでしょうか。

ありがとうございます。

【 宇野課長（企画課）】

大変、皆様ありがとうございます。分かりやすい資料という部分は、評価の大前提となるということで良く分かりましたので、まずこの部分についてしっかり考えて行きたいと思います。また、人口減少の為にいろいろと皆様汗を流していただいて、こういう議論をしていただいているので、今、ご提示いただいたこういう資料、ここも過疎計画の中に、方向性とか取り組む施策としては盛り込まれている部分もありますから、これの特に具現化というか、力を入れて進めて欲しいということで受けとめさせていただきまして、評価というふうに理解させていただければと思いますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

【 渡邊会長 】

ありがとうございます。こんなに熱が入ると思ってもいませんでしたので。令和3年度から始まって、初めての評価になりますので、資料の出し方も今回初めてな訳ですから、皆様からいただいた貴重なご意見をベースにして、次年度は、もっとわかりやすいというか、皆様のご意見に沿った資料にさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。引き続き必要なインフラ整備や住民サービス、また、厚田に人を呼び込む事業などを進めていただければと思います。地域協議会としても、前回の地域協議会で決定した「関わる」「支え合い」というテーマで、厚田区が目指す将来像の近説遠来の実現に向けて取り組んでいきたいと思っています。

それでは、本日の協議事項については、これで終了したいと思います。宇野課長、説明ありがとうございます。

なお、次回の協議会については、厚田カンパニー構想の具現化と、新年度予算について協議したいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

5. 報告事項

特になし

6. その他

全体を通して他に委員から質問等無く、次回の日程を10月25日（火）18時から厚田総合センターで開催することです。

7. 閉会

19時20分に閉会。

令和4年11月18日 議事録確定

石狩市厚田区地域協議会  
会長 渡邊 教 円